

知的資産経営報告書

2008

現場での使い易さと品質価値を大切にする



デンソクテクノ株式会社

目 次

■社長挨拶 皆様へ	3P
■経営哲学	5P
■事業概要	6P
■製品ラインナップ	9P
■過去、現在、そして将来へ	15P
■これまでの経営方針	17P
■実績	18P
■当社の強み お客様の声 構造 技術力 人材育成 組織 顧客	19P
■今後のビジョン	27P
■事業計画	27P
■会社概要	29P
■知的資産経営報告書とは	31P
■注意事項	31P

■ 社長挨拶 皆様へ

私たちデンソクテクノ株式会社は優れた技術を持っている会社です。この技術は長い歴史の中で積み重ねられ、育まれてきました。私たちは、この蓄積した技術を絶対なくしたくない、承継していく、という強い決意の基に立ち上がりました。デンソクテクノ株式会社設立まで苦しい歴史があり、それを語ることで当社を理解して頂けるのではないかと思います。筆をとりました。



代表取締役社長 鈴木昌二

会社設立

大企業はかつてないほどの好景気、高収益を上げている状況の中で、中小企業、特に多くの小企業は苦戦をしいられています。いままで、大企業の下請けで協力していた中小企業の仕事は発展途上国に移され、国内では産業の空洞化が問題になっています。このような中でも、特異な技術を保持している会社は業績を伸ばすことも可能です。

大企業の下請けになることもないし、翻弄されることもありません。独自技術を駆使し、競争に打ち勝つことができます。私たちの会社、デンソクテクノは創立後9年目に入りました。当社は以前働いていた倒産した会社の技術者を中心に設立した会社です。倒産、混乱している中、9人の技術者が集まりお客様に迷惑を掛けないように仕掛けり中の仕事を何とか仕上げました。売上金は私たち9人を含む従業員の未払い賃金に充てられました。なんとか再建したいと思いながら、このような状態が1年続きましたが、残念ながら負債を残し会社は終焉を迎えました。私どもは、この間沢山のお客様から、「技術を信頼している」、「消滅するな」、「もったいない何とか継続できないか」と心強い言葉を多数頂きました。当社の生い立ちは、戦後日本が苦しい中、企業が立ち上がっていった姿に似ています。倒産というダメージを受けても私たちは培ってきた技術、積み上げてきた技術を信じ進んできました。

私たちの技術

私たちは高い精度と特殊な変成器を組み合わせた、もの創り技術を基本として、ハードウェア（電気、電子、メカ）とソフトウェアを融合した製品創りに積極的に取り組んでいます。最近では、お客様から「システム全体を纏めて、納期に間に合わせ立ち上げて欲しい」というようなご要求が年々増えてきました。

当社の持っている、さまざまな技術が信頼されてきたことと、大企業といえども技術者不足による現象と見られ、私どもはこれに応えていけるよう技術者育成に社内技術研修を行っています。

経営方針

私たちは会社規模を大きくするのを目的としません。より安定な企業を目指しています。技術的、デザインの的に優れたカタログ品を増やす努力をしています。できれば世界に通用する製品であればと思っています。本年度、新たに3機種カタログ製品を販売できるまでになり、年度末までにはさらに追加できる見通しが出てきました。良い製品、良いもの創りをするには日々研鑽と根気、努力が必要です。

デンソクテクノ(株) 代表取締役社長 鈴木昌二



■経営哲学

1. 仕様は最低限の約束事と心得ます。

受けた仕事は必ず仕様以上のものを創ります。

2. 新製品を創りだせない企業は忘れ去られる。

世は日進月歩留まってはいません。今まで通りの製品は遅れた製品になります。会社資産は金銭ではなくカタログ製品群です。

3. 新製品開発

計画した新製品は諸般の事情から遅れたとしても必ずカタログ化します。できれば世界に通用する製品でありたいと思っています。

4. すべての取引は現金を基本とします。

協力会社先、資材購入先などに対し、よりよい環境を作るため取引先にも現金をお願いしています。

5. 会社を大きくすることを目的としません。

より安定な企業に育てます。

6. ハード、ソフトを融合した技術商品を創ります。

ハード(電気、電子、メカ)とソフトを融合させ、最適なシステム作りを目指します。ラインで使用するソフトは内製方針を貫きます。

7. 私たちはかかわりを大切にします。

製品創りには多くの方たちとかかわります。

私たちはこのかかわりを大切にします。

■事業概要

デンソクテクノは、電力量計業界における電力量計の調整、検査、検定等に欠かせない設備装置、試験機器、あるいは電力関係業界における保護継電器をはじめとする電力システム保護用機器の調整、検査、試験、保守、技術研修等に必要な設備装置、試験・測定機器を開発から製造、販売、保守までを一貫して行える試験・測定機器の専門メーカーです。生産現場、運用・保守現場、研修所、さらに公的機関等々のお客様に信頼・安心・安全を添えて製品と技術をお届けさせて頂いています。



<電力量計用試験装置>

家庭をはじめ、工場やオフィスなどの事業所で電気を使わないところはありません。使用した電気の量、いわゆる消費電力量を測定しているのが電力量計です。供給する側からすれば、供給した電力量を測定しているのが電力量計ということになります。供給する側から消費する側への電力の授受は料金を伴う取引になりますから、電力量計はその計量の信頼度を問われることになり、公的検定が義務付けられています。

検定に用いられる検定装置には電力量計の信頼度を保証するに足る性能や性能の安定性、さらにその維持が欠かせませんが、調整、検査に用いる装置の性能やその維持の度合いも検定装置に劣らず大切であることにかわりはありません。また、消費者が電力量計の計量料金に疑問を抱いたり、苦情が寄せられたりしたときには、電力量計が取り付けられている現場で、電力量計の性能を確認できる携帯型試験器もなくてはならないものです。

デンソクテクノは、電力量計の調整、検査用の生産現場設備から、検定設備、さらに電力量計の設置現場用携帯型試験器に至るまで、技術と経験・実績の積み重ねで蓄積された電気・電子およびメカニクスのノウハウとソフト・テクニク、あるいはまた最新技術の導入によって、お客様から喜ばれ、信頼される製品とサービスの提供に日々努力を続けています。



＜電力保護装置用試験装置＞

大電流機器は、発電所、変電所などの電気所、大工場、素材生産現場、高層・大規模なビルやマンションなど電力の供給側、使用側の様々なところで主要な役割を果たしています。このようなところには必ず電力保護装置が設置されていて、故障発生などの緊急時に保護装置が働いて、故障発生機器・箇所を電源側から切り離して事故の波及・拡大を防いでいます。事故が発生したときに正しく確実に保護装置が作動することの確認試験が竣工時あるいは定期的に行われます。

保護継電装置の試験は、通常CT、VTの二次側の電圧・電流レベルの試験ですから、大電流は必要としません。例えば、継電器試験の中で最も大きな試験電流を要するものの一つである過電流継電器の場合、100A強の試験電流が得られれば、瞬時要素80Aの試験あるいは限時要素でタップ値10Aの1000%試験には十分です。

デンソクテクノには、保護継電装置の試験用として、保護継電器試験装置、模擬遮断器、時間／周波数計、位相／周波数計などがありますが、安全・安心を第一に電圧・電流・位相・ベクトルや電力や力率など多彩な測定機能を備えているベクトル・マルチメータは特徴的です。

さらにお客様に喜んでいただける、より使い勝手のよい製品創りに励んでいます。



＜大電流機器用試験装置＞

遮断器やCTにおけるように、定格値と試験点によって定まる電流を実際に流して行う試験には大電流を発生できる大電流試験装置が必要になります。大電流試験装置としては工場生産現場用の用命が多く、殊に近年は生産効率と品質管理の向上を意図して大電流試験電源装置の自動化、定電流化の傾向が増えています。大電流発生分野には、豊富な経験実績とノウハウが欠かせません。ノウハウを活かしてのコーディネートにこれからの期待を寄せている分野です。

大電流試験を要する被試験機器のインピーダンスは一般に極めて小さいものです。デンソクテクノでは、試験電流の調整方法として基本的に、(1) 試験電流を流すケーブルを含めて、試験回路自体が固有に持つインピーダンスに対して試験電源の電圧を調整することによって電流調整を図る方式。(2) 試験回路に敢えて直列にインピーダンス、いわゆる限流リアクトル等を挿入して、リアクトルの選択と試験電源電圧の調整を併用することで電流を調整する方式の二つの方式を要求仕様とコストを総合的に勘案して使い分けしています。

遮断器の試験用として動作時間測定器、自動耐電圧試験装置、大電流発生電源装置などの製品があります。

＜CT、VTの試験用測定機器＞

CT、VTの試験用としてCT/VT誤差試験装置、計測用標準CT、VT、さらに標準CT/VT校正装置、CT試験用大電流発生トランスといった製品がカタログ品および受注品として製品化されています。大電流発生トランスの例として、出力20000A／200kVAの実績があります。また、2000A～5Aの大電流標準CTも標準品の一つです。



＜製品ラインナップ クラシック品＞

TRP-22B



■ 継電器試験器 TPR-22B／TPR-22PN

TPR-22B : 電圧・電流調整器

位相に関する継電器を除く過電流継電器をはじめとする、継電器の万能試験器。オーソドックスな試験器として長く定評を頂いています。

TRP-22PN



TPR-22PN : 電圧・位相調整器

TPR-22Bと併用することで、位相に関する継電器の試験ができます。

DTK-150150(／20000A)



■ 大電流発生用変圧器 DTK-150150(／20000A) 大電流試験用の電流トランスです。

容量: 20000A／200kVA

計器用変流器(CT)や遮断器の大電流試験に使われます。



ET-1010B



■ 高電圧耐電圧試験器 ET-1010B 高電圧用機器の耐電圧試験器です。 最大試験電圧: 100kV／10kVA

＜製品ラインナップ 電子技術品＞

■ 計器変成器用試験装置／ATS-52

計器用変成器の比誤差および位相角を測定する装置です。



特長

- ・高確度
- ・低速(高確度)／高速の2種類の測定モードを用意しており、高速測定モードは応答性が重視される生産現場での用途に最適です。
- ・暗いところでの視認性に優れたグラフィックタイプの蛍光表示管を採用しており、見やすいアナログメータ表示が可能です。
- ・標準器の誤差補正入力が可能です。
- ・低価格

※日本電気計器検定所殿技術相談品

■ ACマルチファンクションメータ／ALM-40

1台で電圧、電流、位相角、周波数および電力を測定する装置です。



特長

幅広い測定領域を有していますので、従来では測定が困難であった組み込み用変成器の検査にもご利用いただけます。

- ・電流入力回路は無負担式となっていますので、被測定対象の負担特性に影響を与えません。
- ・ベクトル表示が可能ですので、位相関係をわかりやすく表示できます。
- ・基準側と比較入力側は絶縁されており、安全に配慮した設計になっています。
- ・表示器には明るく視認性に優れた蛍光表示管を採用しています。

※日本電気計器検定所殿技術相談品

■ 時間計校正器／MSS-10

遮断器アナライザや時間計など時間測定機能を有する機器校正するための信号を発生する装置です。



特長

- ・インターバル／ワンショットモードに対応し、最長999.99sまで発生できます。
- ・校正信号電圧、電流および無電圧接点(オープンドレイン出力)の3種類の出力に対応しています。
- ・不揃い時間の模擬信号も発生できます。
- ・最低レンジの分解能は0.001msですので、精度の高い校正が可能です。
- ・外部からの電圧／電流／接点信号で起動することができますので、スタート入力を持たない機器の校正にもご利用いただけます。

＜製品ラインナップ 電子技術、メカ品＞

■デジタル時間計 MCS-5000

小型軽量で明るい表示。精度も申し分ない。
こんな時間計がほしい。
それに応えることができたのがこのMCS-5000です。

概略仕様

- ・測定範囲: 0.0ms～999.99s
- ・基本確度: $\pm 0.01\%$ ± 1 digit
- ・表示桁: 5桁
- ・スタート／ストップ入力: 接点(メーク、ブレーク)、
直流および交流電圧(印可、除去)
- * 多相に対応した製品もございます。



■(電力量計試験用)自動計数装置 PCS-5000

家庭など電力需要家に設置されている電力量計を標準計器と比較して現場試験を行うため最新のプリセット・カウンタです。

現場での使い勝手が良いように従来煩雑気味であった操作を思い切って簡素化しました。

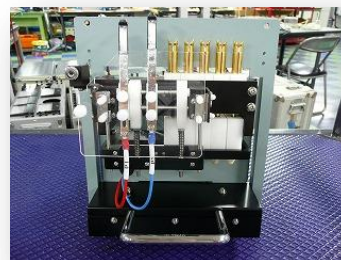


■電力量計試験用自動結線器(治具) 120A計器用

本器は共同開発から生まれた電力量計を試験する際に端子部を自動結線器する装置です。

この装置を導入するまでは1台1台端子にリード線を差し込み電動ドライバで締め付けていました。

電力量計をこの装置にセットするだけで自動結線できるので作業がとても楽になり、お客様の負担を減らすことができました。



＜製品ラインナップ 電子技術、メカ品＞

■電力量計連続通電試験装置

電力量計の連続通電試験を多数同時に柔軟に対応して行える試験装置です。

- (1) 1台の電源で5個ずつ12種類の電力量計を同時に試験ができます。
- (2) 試験対象計器
 - ① 計器定格電流 5A、30A、60A、120A
 - ② 計器相線式 単相2線式、単相3線式、三相3線式、三相4線式
- (3) 装置の構成
連続通電試験電源、連続試験計器描台、および器差試験用電源の三つの装置ユニットで構成されています。

連続試験電源



連続試験用電源を60個の計器に供給する主電源。

連続試験計器掛台



12種類の定格が異なる計器を掛け連続試験を行います。定格の異なる計器5個ずつを12面にセットして(60個)同時に試験が可能です。下部(12か所)に配置された切替器により定格を選択できます。

器差試験用電源



計器を連続動作させたとき、どの程度器差が変わるかを調べる器差試験電源で通電直後の器差、中間時間経過時の器差の差、最終時間経過時の器差の変化の程度を測定します。計器5個単位で器差試験をおこなえます。条件設定はタッチパネルで行い、計測器でベクトル表示が行えます。

<製品ラインナップ 電子技術品>

DPF-600



■デジタル位相・周波数計 DPF-600

「サイリスタ波形のようなタイミング位相角を測定できる製品は？」

この製品は、このようなお客様の声から生まれました。本品はインバータ等の位相角投入時の角度を45～200Hzの範囲で測定できます。

概略仕様

- ・測定範囲: 0.0～359.9°
- ・基本確度: $\pm 1^\circ$
- ・表示桁: 4桁
- ・入力範囲(基準および比較)

電圧: 26～450V

電流: 0.1～15A

* 位相角測定は用途に適した製品がございます。

CDM-330



■ベクトルマルチメータ CDM-330

「危険なCT二次を解放する事なく電流位相を測定したい。」

このようなお客様の声から生まれたのがCDMシリーズです。本品は第二世代のCDMで初代CDMが特長とした安全、確実な測定を継承したもので、数値だけの表示から波形であるいはベクトル図で分かり易く表現できます。ボタンを押すと画面がポンポン手品のように切り替わり作業も楽しい物になります。このような製品を作りたいかった。これが製品を生んだ背景です。

概略仕様

- ・測定項目: 交流および直流電圧、電流、電力、高調波
- ・表示: 数値、波形、ベクトル図
- ・基本確度: 電圧 $\pm 0.5\%$ 、電流 $\pm 1\%$
- ・測定範囲
 - 交流電圧: 360V～0.15V
 - 交流電流: 24A～1mA
 - 位相角: 0.0～359.9°
 - 直流電圧: 360V～0.15V
 - 直流電流: 200A～2A(オプションのCT使用)

NEXT NEW MODEL ?

デンソクテクノ株式会社

は

クラシック技術を大切に

先端技術を取り入れ

新製品に挑戦しています

■ 過去、現在、そして将来へ

- ・しっかりした技術を持ち、承継し、育て、安定した企業を創り、社会に貢献する
- ・新製品を産み出せない企業はつぶれてしまう

＜成長＞

- ・従来のお客様を大切にする
- ・約束を果たす
- ・仕様を守る

創業

DNAの創造

技術者のみで会社を設立
メンテナンス業務中心

自社の基盤を創る
安全・安心・便利
電力関連会社へ納入

お客様への感謝
技術蓄積
協力会社・OB

私たちは、以前のお客様に支えられ背中を押してもらったことから会社をスタートさせていただきました。このことを胸に、新たなDNAを作り上げ、そのDNAを承継しながら現在に至っています。お客様との約束を果たすことから始まり、現在ではお客様に、いかにシーズを提供できるかを目標としています。

私たちの将来ビジョンは、決して企業を大きくすることではありません。安定する企業を創り、会社を継続し続けることこそが私たちのビジョンなのです。

＜将来ビジョン＞

＜現在＞

- ・従来のお客様を大切にする
- ・契約を守る
- ・お客様の希望に応える

ニッチ分野でトップを確かなものにする

技術者集団
フラットな組織
ベクトルを合わせる
能力負担評価
人材育成

お客様への感謝
技術蓄積、開発
技能協力会社
技術顧問団

DNAの承継

複数のニッチ分野を複合的な領域を開拓する

世界に通用する製品
カタログ新製品充実
新製品開発年間3件以上

大規模システム受注拡大

お客様への感謝
技術蓄積、開発、融合
技能協力会社
技術顧問団
外部技術支援

DNAの承継

これは、「従業員の生活を守り、お客様や取引業者様との約束を守り続け、社会に貢献する」ことを最も大切なことと思っているからにほかありません。また、今まで支え支援してくださった多くの企業や関係者へ恩返しをしたいとの思いからでもあります。

安定した企業にするために、創業からのDNAを承継し守り続けながら、自社の分野において世界的レベルのカタログ製品をできるだけ多く開発していくことを目指しています。同時に、企業の要望に応えプロジェクト全体をリードしていく業務も手がけていきます。これらのことを実現するためには、多くの課題があります。莫大な技術の承継もその一つです。私たちはこれらの課題に一つ一つ向き合い、安定した企業を人と技術で創り上げていきます。

■これまでの経営方針：強みの背景

前身の会社から技術者のみで立ち上げた会社です。メンテナンスの継続と新規の強いご要望のご期待に何とかお応えしたいという気持ちから会社を設立いたしました。

当社は従来のお客様を大切にすることを最も重視しています。契約を果たすこと、仕様を守ることは最低限の事と考え、会社を立ち上げました。そして今ではお客様を大切にし、契約を守り、お客様の希望に応えることをモットーとしています。

安心・安全・便利を掲げ、能力負担に応じた待遇を実施し、カタログ商品の開発に力を入れています。

製品は主に電力会社とその関連および装置メーカーや公的機関に納入しています。製造している製品は多くはニッチの分野で、いずれも技術の積み上げが必要なことから技術顧問団、OBの協力を得て創業以来ここまで順調にきています。

技術者が最も力を発揮できるように、技術者集団でフラットな組織にしています。課や部はグループ制としていますが、〇〇長はいません。プロジェクトごとに責任者を置いています。社員のベクトルを合わせるために、評価を能力負担に合わせて行っています。また、人材の育成にも力を入れています。

現在の会社

技術者が中心の会社です。
朝のミーティングで仕事全般に渡り周知徹底されるようにしています。
将来は自身が会社を引き継ぐことを意識するように指導しています。
各自がコスト意識を持っています。
設計者を始め、資材、品証、組立など全社で見積意識を自覚しています。
過去の苦い経験を教訓としています。

■実績

1. 主な取引先および最終納入先(敬称略 順不同)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| ・日本電気計器検定所 | ・美和電気工業(株) |
| ・大崎電気工業(株) | ・古庄電機産業(株) |
| ・(株)東芝 電力流通・産業システム社 | ・菱電商事(株) |
| ・東京電力(株) | ・新川電機(株) |
| ・東光電気(株) | ・三菱電機(株) |
| ・富士電機システムズ(株)安曇野工場 | ・轟産業(株) |
| ・タカオカエンジニアリング(株) | ・西川計測(株) |
| ・東京電設サービス(株) | ・(株)日進機械 |
| ・(株)エネゲート | ・国華電機(株) |
| ・北海道計器工業(株) | ・(株)第一エレクトロニクス |
| ・東北計器工業(株) | ・関西電力(株) |
| ・東京計器工業(株) | ・(株)豊和 |
| ・北陸計器工業(株) | ・向陽電気(株) |
| ・中部精機(株) | ・オリックス・レンテック(株) |
| ・四国計測工業(株) | ・横河レンタ・リース(株) |
| ・沖縄電機工業(株) | ・(株)千代田組 |
| ・中国計器工業(株) | ・(株)高岳製作所 |
| ・九州計装エンジニアリング(株) | ・京南電機(株) |
| ・(株)明電舎 | ・日本工営(株) |
| ・テクノハカルエンジニアリング(株) | ・エネサーブ(株) |
| ・横河マニュファクチャリング(株) | ・電源開発(株) |
| ・北海道電力(株) | ・九州電力(株) |
| ・中国電力(株) | ・東北電力(株) |
| ・中部電力(株) | ・四国電力(株) |
| ・沖縄電力(株) | ・北陸電力(株) |

2. 納入実績および開発実績

- | | |
|------------------|---------------|
| ・電力量計調整装置 | ・変成器試験装置 |
| ・電力量計検査装置 | ・時間計校正器 |
| ・ブレーカ試験装置 | ・保護継電器試験装置 |
| ・大電流遮断器試験装置 | ・微少電流域位相計 |
| ・20kV自動耐電圧試験装置 | ・8000A定電流電源 |
| ・100kV全天候型試験用変圧器 | ・ブレーカ試験用定電流電源 |
| ・各種検査治具 | ・交流試験装置 |

■ 当社の強み お客様の声

A社 T氏

20年ぐらいの付き合いで、計測器や測定装置の試作を手伝ってもらっています。デンソクさんは、職員が誠実で信頼の置ける企業です。約束は必ず守ってくれますし、できないことはできない、できることはいつまでにできるといってくれます。そして、いいものが仕上がってきます。当社の持っていないところを持っている企業です。

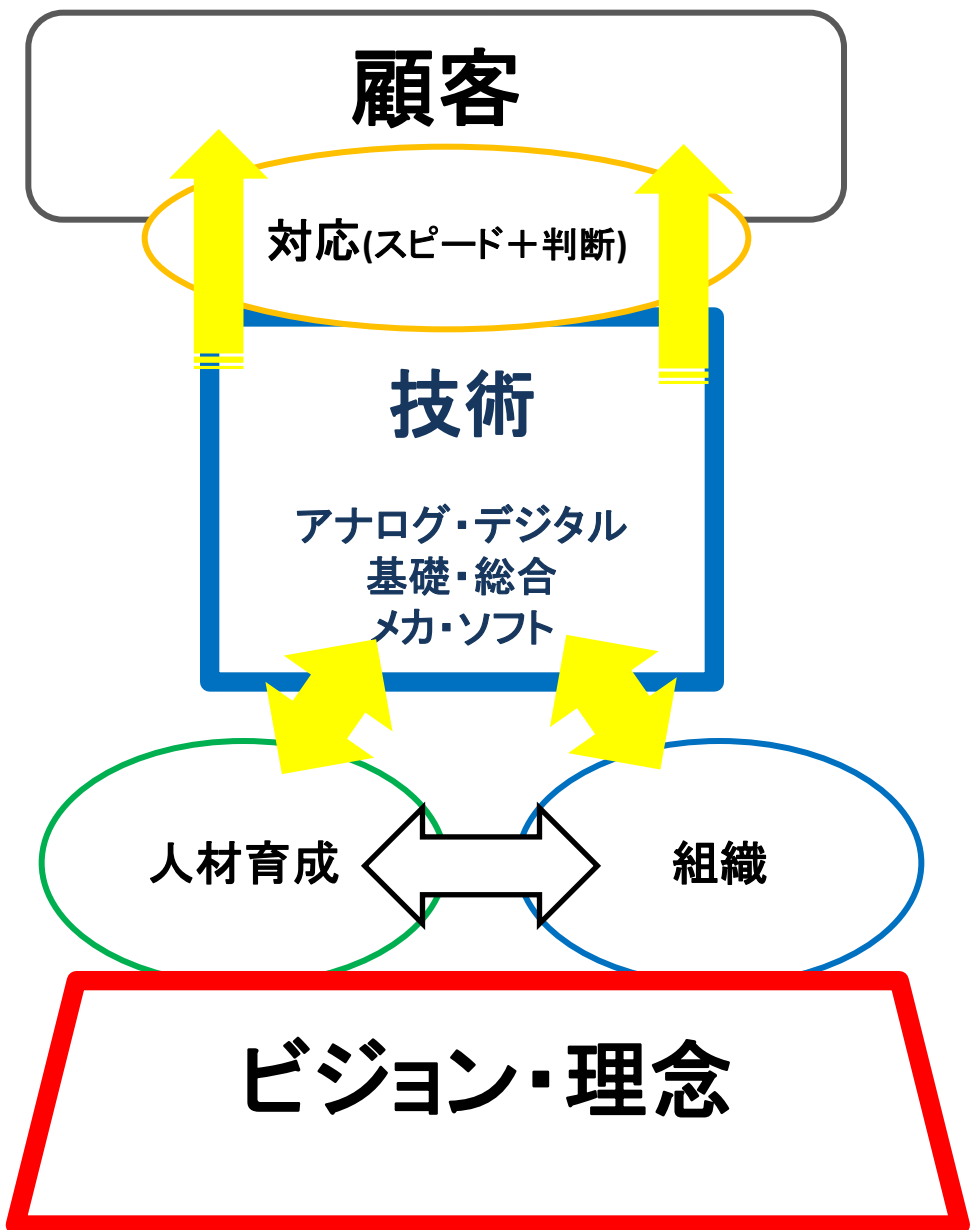
打ち合わせでは社長が同席してくれるので、その場で決断が行われ非常に早いスピードで物事が進みます。その場で業者に連絡を取り、スタッフ(専門家)のカタに「〜〜が必要」とのアドバイスをしてもらい、図面を起こすですぐにいきます。他社では決済などがあり、2〜3日かかる場所その場で進むため1日もかかりません。

社長も技術力があり、いろいろ教えてもらうこともあります。その日に決まったことは、十中八九当たっており、ほとんど失敗はありません。基本的に基本構造はOKで、何回か作っているものは100%満足できるものが仕上がってきます。例えば、測定装置の開発では、社長と直接話して構造などについてもアイデアを出してもらっています。社長のことを、業界では知らない人はいないんじゃないですかね。

いつも期待には必ず応えてくれます。正直、ものすごく重宝しています。技術を製品にする力がとてもあります。当社には研究開発のアイデアが一杯あるのですが、これらを具体化してくれるのがデンソクさんです。ポンチ絵や特許図面などの原理設計から現物設計、デザイン、実物へと持っていきってくれます。ポンチ絵からちゃんとした仕様書を作ってくれます。また、他社だと1〜10まで手取足取り教えないといけないのですが、デンソクさんは肝心なところを一つ教えると、後は自力で製品にしてくれます。出来上がったデンソクさんの製品は、非常に丈夫で20年は使えます。あえて難点と言え、もう少しオシャレで軽量化ができれば申し分ないです。

困ったことや、急なことでも迅速に対応してくれます。特注や数が少ないものでもそこそこの価格で、日数も大体要望どおりでやってくれます。本当に困っているときに助けてくれます。例えば、「〜を測定できるものをどうしても作りたい」というときに頼めば必ず何とかしてくれます。

そうですね、点数でいえば100点満点中85点です。15点はデザインと小型化、軽量化ですね。



当社の強みは、「従業員の生活を守り、お客様や取引業者様との約束を守り続け、社会に貢献する」ことこそが大切であるという信念に基づき、高い技術力を柔軟でスピードのある対応でお客様に届けることにあります。また、この技術力を支えているのが、若手の人材の育成であり、やりがいを生み出す組織のあり方です。さらに、振り返ると、多くのお客様に支えられているからこそ当社の今があると感じます。

■当社の強み / 技術力

ソフトの内製化

ラインに使用されるソフトウェアの設計は社内で行っています。装置単体の内部ソフトやシステム（試験装置全体）のソフト設計も外注に依頼せず、社内設計、デバッグやシミュレーションを行い、品質を向上させます。ソフトの社内設計はそれによりお客様の要望にも迅速に対応ができることと、ソフトのモジュール化により品質の向上とコストの削減にもつながります。またシミュレーションの活用で、納品後のバグを極力なくすように努めています。

最近ではお客様からソフト、ハード、メカのシステム全体をまとめて納期までに間に合わせて欲しいという要求が増えてきました。

・技術顧問団・OB



当社には非常に高い技術と経験・知識を持っているOBの方が多いです。これらの方々に、若手を中心に電気、電子、メカに関する様々な指導、支援をしていただいています。

・協力会社

京南電機(株)



当社は、多数の技術力のある協力会社に支えられています。

設計を製品という形にするのには、様々な技術や技能が必要になってきます。高度な技能を持った多くの企業に私たちは支えていただいています。



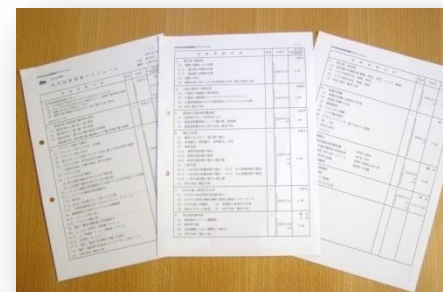
■当社の強み / 人材育成

1. 技術育成 研修



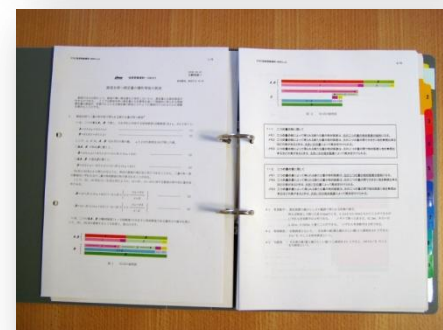
社内研修の目的

- ◎ 将来を若い人たちに託せるようにしたい！
- ◎ やって見なければわからないを極力なくし、事前に計算シミュレーションを行い、納期と経済性を改善！
- ◎ 理解できるまで根気よくやる！
誤差の扱いなど基礎技術と、弊社の強みである位相の扱い、虚負荷について研修を行います。特に「虚負荷」については一般の書籍では語られていないため、若い人たちが理解できるように顧問より丁寧な説明をしていただきます。



5,6月はほとんど毎日1～3時間の研修が組まれており、顧問や開発担当者などが交代で講師を務めています。

参加は強制ではありません。仕事のあと夕方に、会議テーブルに自主的に集まり、研修会が開かれています。



テキストは当社顧問が作成しています。内容は、誤差、ベクトル、電圧源、電流源、電力の計算など、基礎的なことをみっちりマスターすること、虚負荷など教科書などには出てこない特殊な知識を吸収すること、さらに、新製品についての知識などの構成になっています。

■当社の強み / 人材育成

2. リーダー育成

・既設設備メンテナンス同行



若年者と技術保持者とが出張同行を行い、若年者の技術向上など様々な現場対応を習得します。

・技術相談、打ち合わせ



新製品開発の諸問題あるいは現場での難解なトラブルを解決するため、ベテラン社員や顧問がバックアップをする体制をとっています。技術的な内容やお客様対応について相談をして解決することもあります。

■当社の強み / 人材育成

3. 支援

・制度(能力負担評価制度、特許、旅費など)

弊社では、社員を成果ではかるのではなく、その社員が自分の能力をどのくらい発揮し会社に貢献をしているかという視点から評価していきます。自分で仕事にやりがいを見出し、またはやりがいのある仕事を見出し、積極的に仕事に取り組む姿勢を最も大切にしています。

これらを支援する制度がいくつもありますが、例えば特許に関しては、独自の報奨制度を作っています。また、旅費などでも、社長からアルバイトまで同一の規定にし、職位ではなくその人自身を大切にしていることを従業員に示しています。

第3章 補償
(発明者への補償)
第10条 会社は、出願権を承継した発明等が次の事項に該当するとき発明者に対し別に定める補償金を5期に亘り支給する。
(1) 会社が保有する特許権等につき共有者からの実施料収入を得たとき。
(2) 会社が保有する特許権等を、社外者に実施権の使用を許諾し実施料収入を得たとき
(3) 本発明を使用した製品を販売し収入を得たとき
(補償の金額)
第11条 会社は毎期5月31日その期に上記(1)から(3)についてそれぞれ集計し支払う。
(退職後の補償)
第12条 補償金の支給は、原則として発明者の退職後も規定期間行う

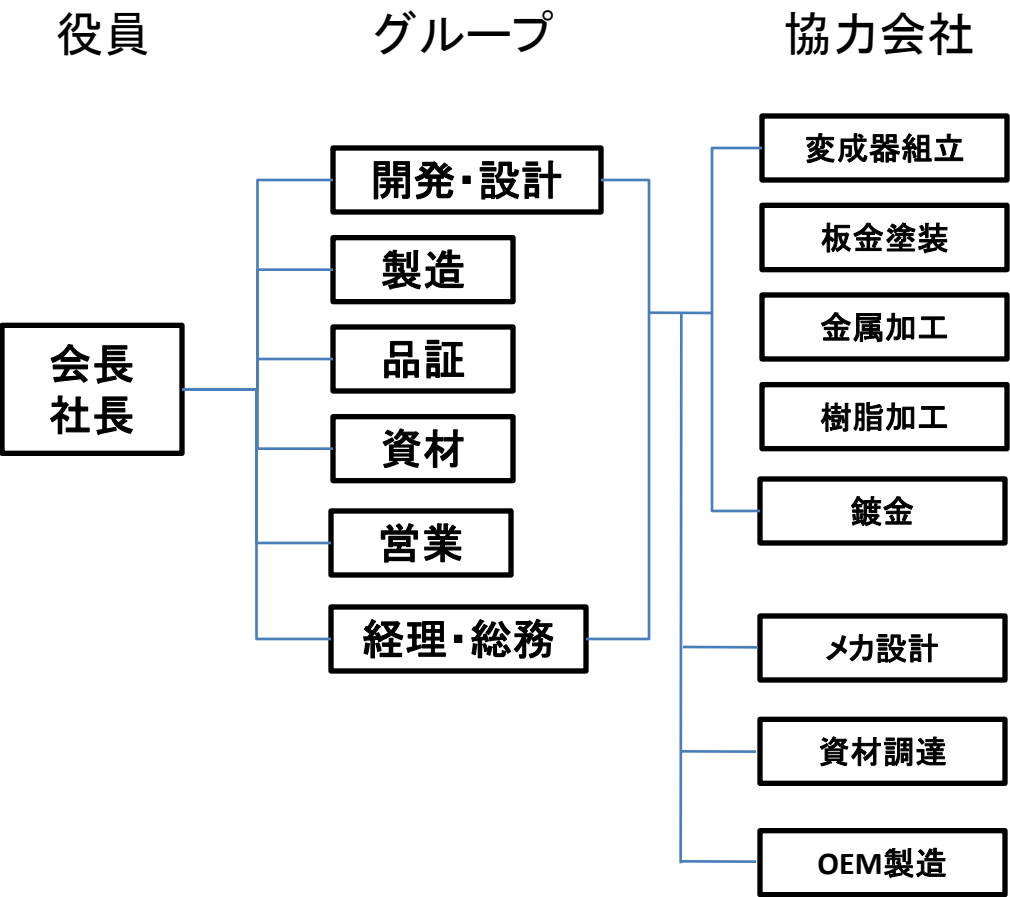
・OBによる設計図整理支援



膨大な技術資料、生産中止部品による図面の更新など、技術資料の整理をOBにお願いしています。

■強み / 組織

フラット組織: 長職なし=プロジェクト制度



■強み / 顧客

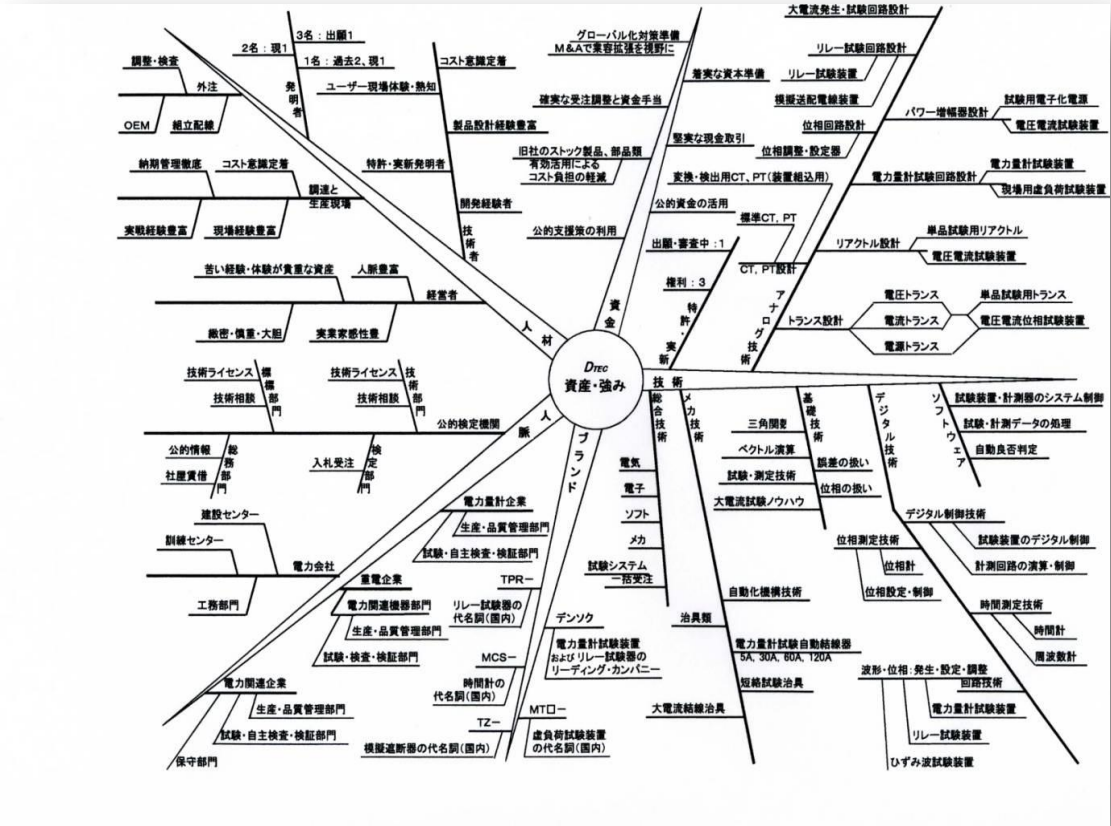
電力会社を中心とした多くの企業と多数の既納入稼動機器



当社が納入した電力量計検査装置をお客様が自社工場で運用しているところ
です。

電力量計は一般の家庭あるいは工場に取り付けられ、使用した電力量に応じ、その料金を電力会社に支払うこととなります。そこでこの電力量計の器差を測定する装置自身が、決められた性能を発揮しているか、国の審査を受け合格した装置に限り運用できます。

■参考 強みマインドマップ



グループには分かれています、固定的なグループ長はいません。今回、報告書の作成を担当した、開発グループの桜井や資材グループの大森の名刺を見ても、グループ長や〇〇課長、〇〇係長という肩書きは一切ありません。単にグループ名が載っているのみです。実際には仕事はプロジェクト単位で行われ、プロジェクト毎にプロジェクトリーダーが決まります。リーダーが責任をもって業務を推進していきます。人材の育成も、プロジェクトリーダーを担当させることを通しておこなわれます。また、協力会社も30年来の付き合いのところが多く、高度な技能を持っている会社ばかりです。これらの会社の技能がデンソクテクノの技術を製品へと形作ってくれています。

■今後のビジョン

1. 2017年の姿

売上 : 10.5億円
従業員数 : 23名
新カタログ商品 : 30品目
世界的商品 : 10品目

2. ビジョン実現のためにしていくこと

- ・ 技術継承のため継続して技術研修を行う。
- ・ 協力会社に対するレベルアップの指導。
- ・ 同業他社との吸収合併。
- ・ カタログ品 3品／年、改良品 1品／年
- ・ 世界的商品(先進国で通用する)の開発を心がける。
- ・ 分野のエキスパート、リーダーになる。

■事業計画

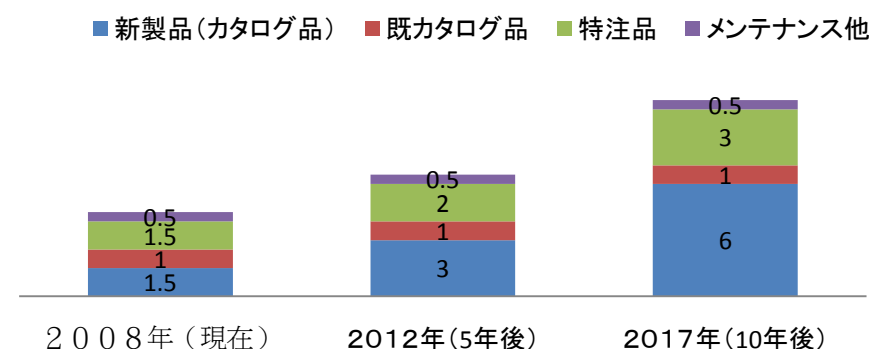
より安定した会社とするため新製品(カタログ品)に力を入れ3形式／年以上を目標としています。2008年度は3形式の目途が立ち、さらに2形式計5式のカatalog化が実現できそうです。

年ごと、浮き沈みが激しい受注品分野は、その受注量に合わせ従業員を加減することはできません。人員を押さえ、最大限の成果を上げるにはカタログ品に力を傾注し、計画生産、代理店販売することです。

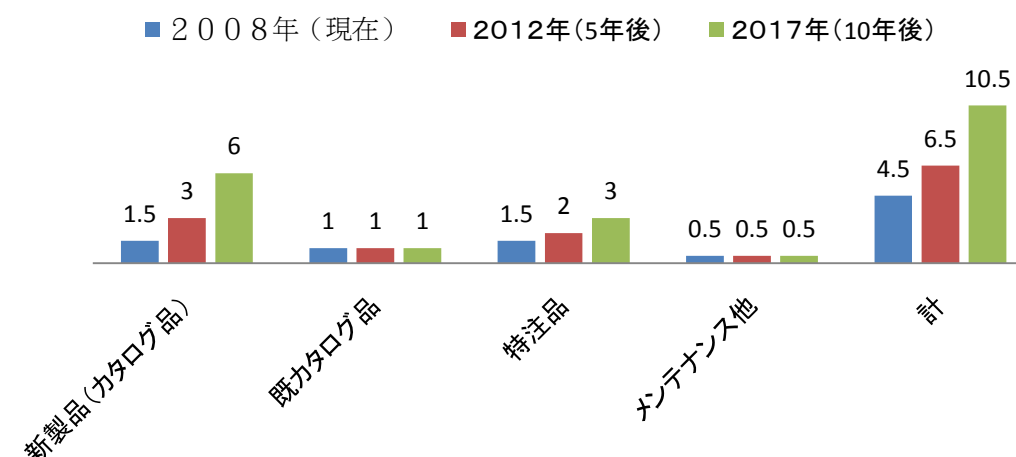
なお、お客様が当社の技術を評価して頂ける特受注品については、できる限り応えていきたいと考えています。

	新製品(カタログ品)	既カタログ品	特注品	メンテナンス他	計	従業員数	備考
2008年(現在)	1.5億円 / 7品	1億円	1.5億円	0.5億円	4.5億円	20	輸出割合 3%
2012年(5年後)	3億円 / 15品	1億円	2億円	0.5億円	6.5億円	22	輸出割合 10%
2017年(10年後)	6億円 / 30品	1億円	3億円	0.5億円	10.5億円	23	輸出割合 20%

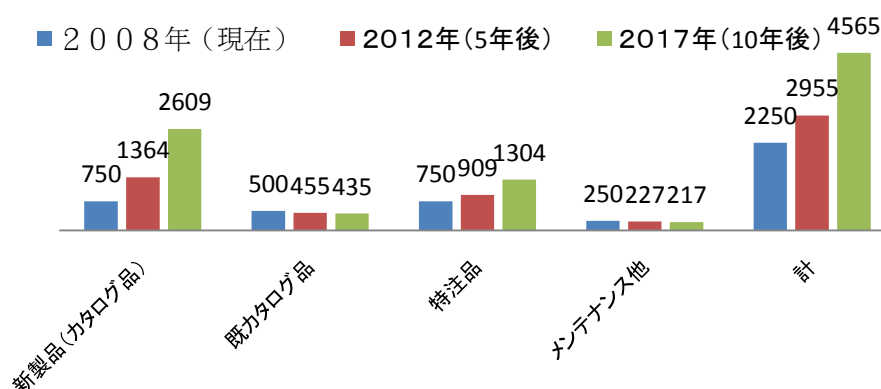
経年売上げ構成変化(単位:億円)



科目別経年変化(単位:億円)



項目別一人当たり売上げ経年変化(単位:万円)



■会社概要

社名 デンソクテクノ株式会社

所在地

〒108-0023

東京都港区芝浦4丁目14番13号 日本電気計器検定所別館2号館3階

TEL 03-5439-6801 FAX 03-5439-0566

U R L: <http://www.densokutechno.co.jp>

e-mail: dtec@densokutechno.co.jp

設立

平成12年 6月15日

取締役会長 榎本 隆

代表取締役 鈴木 昌二

資本金 1,000万円

事業内容

主に下記の製造・販売・保守を行っています。

- ・電力量計・検査装置
- ・保護継電器試験器
- ・標準用計器用変成器
- ・大電流発生器
- ・高電圧発生器
- ・耐電圧試験器
- ・電気計測器の製造・販売、修理、校正

取引先銀行

三井住友銀行 日比谷支店

川崎信用金庫 糀谷支店

三菱東京UFJ銀行 三田支店

地図 JR田町駅東口より徒歩約15分



■知的資産経営報告書とは

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産（特許・ブランドなど）、組織力、経営理念、顧客とのネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源の総称を意味します。

よって、「知的資産経営報告書」とは、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー（利害関係者）に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動（価値創造戦略）として目に見え、形で分かりやすく伝え、企業の将来性に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。

経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠し作成しています。

■注意事項

本知的資産経営報告書に掲載いたしました将来への経営戦略及び事業計画、及び事業見込みなどは、現在入手可能な情報をもとに、当社の判断にて記載しています。

そのため、将来、当社を取り巻く経営環境（内部環境及び外部環境）が変化した場合、戦略や事業計画などこれらの記載内容などを変更する必要があることもあります。その際には、本報告書の内容が、将来実施する内容や将来実現目標とする内容や数値と異なってくる可能性もあります。

以上より、本報告書に掲載した内容や数値などを、当社が将来に渡り保証するものでないことを、十分にご了承願います。

■この報告書に関するお問い合わせ先

デンソクテクノ株式会社

〒108-0023
東京都港区芝浦4-14-13
日本電気計器検定所別館2号館3階

担当 資材グループ 大森慎一

TEL 03-5439-6801
FAX 03-5439-0566
E-Mail dtec@densokutechno.co.jp
E-mail s-oomori@densokutechno.co.jp
U R L <http://www.densokutechno.co.jp/>